磐城經濟新報

發行日五日、廿日（二回）
編輯兼印刷人　鈴木昌雄
發行人
福島縣石城郡平町材木町廿二番地
發行所　磐城經濟新報社
廣告料　五號活字詰一行廿錢　場所指定拾錢增
新聞定價　一部十錢　月二十錢　一年貳圓四拾十錢

經濟界の一角に暗影を投じ 亂雜を極むる磐城銀行

出納事務が悉く不統一に流る

大津支店に疑はしき金の行衛

本郡財界否本縣經濟界の一角に暗影を投ぜしめ、財界の伏魔殿たるの稱號を最も如實に言ひ現はした磐城銀行は全く本縣財界のバチルスとして社會の疑惑の焦点とはなつた前頭取白井博之氏時代に於て磐銀欠陥の跡を形造り、博之氏去つて倅一郎氏が磐銀を鞅掌するに至り、無能にして磐銀を毒するものなりと視らるゝ草野順平氏と相俟つて、いやが上に磐銀の欠陥を露骨にサラケ出すに至り、信用を失墜するに至つたことは寔に磐銀の爲めに惜しまねばならぬ、一体磐銀をして泰山の安きに置き、信用の増大を計つて財界の覇者たらしむるもしないのも支配人たる草野順平君のいつも白石氏の手を煩はせねばならなかつた、然るにこうして白石氏を通じて磐銀より引き出した

白井一郎　君又然りで、磐銀をして今日の窮狀を目の當り見るに至つた事は、要するに其人を得ぬ所に基因すると言はねばならぬ。

内氏は磐銀に對しては絶對の信用を有した富豪であつた、博之氏が磐銀より金を引き出すには

金三千余　圓は未だ返濟されず其儘になつてゐる事實がある、五百圓或は千圓と幾口にも磐銀より引出すごとに博之氏は白石氏に一冊の證文なるものを渡すのが常であつた。

證

右の金員は貴殿の名義を以て磐城銀行より借用致し候へ共拙者に於て使用するものに就き貴殿に對し毫も迷惑相懸け申間敷後日の證として一札差入置候也

明治　年　月　日

白井貞藏

白石長内殿

右の樣な證書を差入れて白井氏の名義を以て磐銀より引出して居たのである

當時白井　氏が何故に白石長内氏の名義にあらざれば博之氏に對して金を貸し得なかつたかと言へば、當時の重役は博之氏を全く信用しなかつたといふ事である、信用しなかつた博之氏を何故に後に至つて頭取の位置にすはつたかと言へば、岳父遠平氏の指金と威光に依り是れに對し拒否する事は出來なかつたのである、博之氏が磐銀に對して何等の實權なき時代に於てすら金を引き出すに汲々としてゐた位であるから頭取の位置に据はつてからの狀態では大概見當がつく事である。

株式店に纏る 磐城銀行の損害

長塚支店と大津支店の失敗

磐銀の出納事務の如何に亂雜を極めて居るかは其事實に徵して明かであるが、斯くまでに亂雜を極むる責任は

草野順平　君にありと極言しても亦止むを得ざる事である、嘗て川添房次郎、阿部政右衛門、駒場四郎の諸君と共に草野君は株式店なるものを開始した際、各銀行會社の株券を買ひ集めて一儲けせんものと計畫したが、大正九年來の財界の不況から折角買ひ集めた諸會社の株値は遽然として下落し其損害も蓋し莫大なるものがあつた、當時諸會社の株券を買ひ集めた際駒場四郎の名義により磐銀より引き出した金も矢張り草野順平君の

手を通じ　て出したものであるが、實際は草野君の名義で磐銀より引き出す事は不都合である位の事は遺に草野君も承知してゐるから名義を駒場四郎に借りて引き出したものであるといふ事である、其金額二萬五千、この金は未だに返濟されず

大津支店　に於ける亂雜も最近に至り其内容に疑獄事件に似たる事實が介在してゐるが支店長志賀繁敏氏の死後四千圓の行衛不明の金錢があり、志賀支店長の費消したものか否やは號を追ふて報導する事にする。

たかと言へば、當時の重役は博之氏を全く信用しなかつたといふ事である、信用しなかつた博之氏を何故に後に至つて頭取の位置にすはつたかと言へば、岳父遠平氏の指金と威光に依り是れに對し拒否する事は出來なかつたのである、博之氏が磐銀に對して何等の實權なき時代に於てすら金を引き出すに汲々としてゐた位であるから頭取の位置に据はつてからの狀態では大概見當がつく事である。

白石長内氏に渡した 怪證文と博之氏

未だに解決せずに當時を語る一札の證文

白井博之氏が磐銀の金を費消しむの出來ぬ當時からである、時始めたのは最近に初まつた事ではなく、同氏が未だ

磐銀頭取　とならぬ以前ました時代で同氏にはきまつた收入とてはなかつた頃であつた即ち磐銀に對しては未だ何等のから其懷具合がたまに困る事があつた、其時代小川村の白石長實權もなく何等の權利を差し挾

御詫び

七月下旬より旅行中でありました故に五日の新聞が大變遲れました事を深く御詫びいたします何から何まで私一人でやらねばならぬ現在ですから此点を御諒察の程を御願致します。

磐城經濟新報社　鈴木昌雄

讀者各位

談—論—風—發

□

民報の山田君、國民の半谷君は、銀行の記事を書くと新聞の信用がなくなるといふ卓見には輕服する。

□

この卓說は果していづこに根據を有するにや更に風發子には譯が譯らぬ。

□

銀行内部に當然報導すべきもの有も報導せず、如何なる暗黑面が介在するも其儘封じ込んで置きさいすれば新聞の權威が向上する譯かネ。

□

兩君の卓說が以て取つて信條とするならば、吾日本の財界はどうなる、敢て借問する。

暑中御伺（順序不同）

堀部留造
野崎滿藏
小野晋平
萩原義雄
青木貴一郎
武田精一
諸橋久太郎
山崎與三郎

京都市岡崎北御所町
京染商店
京染の權威
青木

平製氷株式會社
平町南町通り
佐川洋服本店
電話（呼）二六九番

四倉電氣株式會社
取締役社長　新妻盛
監査役　大谷喜作
相談役　鈴木堅助
相談役　森本盛一
取締役　渡部清
監査役　大島要三
監査役　武藤茂平
監査役　三浦德

貧富協調の妙機は

無盡會社

湯本信用無盡株式會社は、成立以來よく無盡會社の本領を發揮して好成績を收め他に見る可らざる隆盛を來したが此程同會社では左記の如く株主に對し書狀を發送したが、同無盡會社の精神がいづこにあるかを知る事が出來る。

謹啓いよ〳〵盛夏の候となりました所、貴家益々御清祥當地方のため慶賀いたします。陳者當會社も株主各位の甚大なる御援助の下に社員一同拮据精勵致しました結果、世間の不景氣にも係らず契約金高壹百六萬八千餘圓を計上し、給付金の交付、貸付金の回收其他一般業務が克く順調に進渉し得たることは地方金融界のため御同慶に堪えません。現代社會に於ける經濟組織は個人主義を基調として生れ出たものでありますから、勢ひ優勝劣敗、弱肉强食の弊を免れません。この時に於て、無盡の組織は、共同主義の精神から生れたものでありますから開うしたる弊害がないばかりでなく、極貧極富の傾向を阻止し、國家の中堅たる中產階級の擁護擴張をなす特能を有してをりますので、無盡會社がます〳〵隆盛となつて、眞乎徹底せる貧富協調の妙機を發揮する事になりますれば、ただに地方金融界の幸福ばかりでなく、各種の社會問題は自ら解決して國民生活を安定せしむるためにも非常な貢獻をなすものでありますから、株主各位もよく無盡の特性を御了解下さいまして、今後益々御援助を賜はり、當會社をして政府が企圖したる重大なる使命を遂行せしめらるゝやう偏に御願致します。

今回、當會社が別紙の如く新會社募集を開始致しましたに就ては、精々諸方へ御勸說下さいまして、この目的を貫徹するため、加入者の御紹介其他萬般の御配慮を願ふ次第で

あります。 敬白

大正十五年七月十四日

福島縣石城郡湯本町
貳白參拾五番地
湯本信用無盡株式會社
電話四七番

株主各位樣

總會に現はれた兩行の場面

過般行はれた磐銀及び平銀の株主總會の場面を見ると、相反したシーンを見せた、磐銀の總會は狠狽氣味で一瀉千里で可決する事に焦り、平銀は悠揚迫らず、不審の点あらばドシ〳〵質問するがいゝと云ふ堂々たる場面を見せた。

來る十日より メートル普及 展覽會

三日間公開堂に於て

日本度量衡協會福島支部石城郡會及び福島縣計量器組合石城支會が主催となり來る八月十日より八月十二日迄三日間午前九時より午後十時まで舊郡役所公會堂に於てメートル法展覽會を開催しメートル法促進と其徹底に資する筈であるが、會長に諸橋久太郎氏、副會長に鈴木堅助氏を擧げた、因に十二日は左の順序に依り仁井田浦に於て園遊會を催すと。

一、午前八時七分平驛發四倉驛下車(臨時列車)
一、磐城セメント株式會社四倉工場參觀(四倉驛より二百メートル)會社に於て茶菓の饗應
一、徒步にて海岸傳へ、仁井田浦新舞子園遊會場に至る(此間約九百メートル)
一、午前十一時より海地引の余興終つて園遊會(雨天の時は四倉海岸海氣館)以上解散

石島家改名

今回石島德長氏は一德齋に、敎福氏は德長と夫々改名したと。

普通銀行の不當貸付問題

資本金の法定も論議の中心になる

大藏省金融制度調査幹事會の基礎案の中普通銀行の資本金法定並びに不當貸付の制限の二件が頻りに問題となつて議論せられてゐる、即ちその論議の中心となつてゐるものは資本金法定によつて生ずる利益並びにこれが實行の能不能が主たるものとなつてゐるがその內容は、若し銀行が資本金法定の實現によつて增資する場合この增資押へ込みのため財界に何等の變動を與へぬか如何か又增資の結果配當を維持することが出來るかどうかといふことが問題となつてゐるが、若しこれを增資したる結果多くのものは反つて配當が困難に陷るであらうといふ議論が多い、又資本金法定の結果中小銀行で無理な合同を行ふ結果合同後種々な問題が生じてこれが監督上反つて面倒な問題が生ずることゝなりはせぬかといふやうな問題が改善上頗る重要な問題とされてゐる、更に不當貸付制限問題に關しては種々の反對意見が行はれ反つて銀行の活動能力を抑制するものとして議論が多く結局これは規定を設けずに出來るだけ不當貸付の制限を行ふことゝ、この間餘裕を存して置く方がよいといふことに意見が一致する模樣であるが、これに不當貸付制限の問題に止まらず資本金法定の如きも特に最低資本金法定といふやうな固苦しい法規を設けず何等か他の方法によつて資本金を適當の程度に增資することにする方が穩當ではあるまいかといふやうな意見も最近有力になつて來た模樣である。

暑中御伺

(順序不同)

吉田正雄
中山元治
吉田廣三郎
吉田壽三郎
高岡唯一郎
山野邊義政
清野キヨ
瀧澤俊平

目出度重なる 白井一家の昨今

赤兒も出來れば嫁御もできる

白井家にもいつかは春が訪れてきた、永らく獨身生活を續けきた白井一郎君も、春の華やかさと惠られた享樂味を祝盃の中に滿々と盛られる時がきた、榮子夫人も一旦離緣になつたものゝ、酒井良平君や管野角之助其他氏を環る人々は何んとか再緣せねばなるまいと、心を碎いて奔走したものだつた。

×

一郎君は獨りの詫びしい生活から榮子夫人との再緣は決してイヤではなかつたが、何故か榮子夫人の方では余りかんばしくは思つてはゐなかつたもと〳〵、榮子さんと一郎君とのなれ染めは唯の中ではなかつた、榮子さんが紺屋町の屋敷に見習奉公と言ふ格で住み込んでゐた時、一郎さんの覺ゑも目出度く榮子さんのゐた腹には唯ならぬふくらみが出來上つた、そうした仲であり乍ら、良平さんとなんのかんのと、遂に追ひ出された榮子さんだもの、それでは、再緣まつてましたとばかりに行くものではない。

×

榮子さんの小さい胸には早くも一郎さんの冷血さに、哀しいあきらめがついてゐた、サツサと見切りをつけて今ではさる東京の末賴母しい人と一緒になり、可愛い赤チヤンまで擧げられたといふことである。

×

一郎さんと榮子さんの出來榮えが、紺屋町の白井控邸であつたが、草野順平さんと一郎さんの令妹との出來具合も、順さんが紺屋町に寄食して中學に通ふ頃からのなれ染でばあつた、紺屋町の白井控邸、何んといふれ目出度の重なる家であらう。

×

父さんの博之氏も亡き妻の後宮田三朗といふ新聞記者が月下氷人となり水戸から美しい妻を迎ひたが、博之氏は尙捨て難い高奴と會ふ瀨を樂しみにしてゐるといふので、水戸から來た美しい妻は平を引き擧げて水戸に歸つて行つたが今では福島で賴しいホームに醉ふてゐる目出度さ。

×

一郎さんにも今度矢張り宮田三朗といふ人がそれ〴〵奔走した甲斐があつて芳紀正に二十才といふ美しい女性と緣談が纏り近く華燭の典を擧げる事になつた。

×

これを內々聞いてしつた政榮さん、トテモ望まれぬ一郎さん、ドウセ生きても甲斐がないといふので、悲觀してあのフク〳〵とした肉体も近頃メツキリやせほそつたといふ、それでも妾の愛する一郎さんの幸福になる事ならと、淡いあきらめもついたが、政榮頻りにその花嫁の顏見たいとやきもきして、心が少しも落つかぬといふも亦ことわりなり目出度の重なる時は又重なるもので、順平さんの妻女が先頃赤ちやんを生んだばかりの今日この頃、福島にゐる二世も三世も誓つてござる姫松さみも近頃お腹に異狀を呈してきて、もうかれこれ八ヶ月、今に赤ちやん出來たなら可愛順さんに生きうつしと今から姫松のよろこびと望はさる事乍ら、材木町にある順平さんの妻女もさすがに賢明な夫人顏に袖あて涙を拭くこともあるが、順平さんの前では共にうれしいと言はぬばかりの笑顏をつくつて順平さんの心をよくも察してゐる、白井一家の上に目出度重なる大正十五年こそ忘れられぬ吉年とこそ言ふなめり。

福島縣株式記

株名	拂込額	仲値
福島農工	一〇四〇〇〇	二五四〇〇〇
同新	一五、〇〇〇	一九、〇〇〇
百七銀行	五〇、〇〇〇	三、五〇〇
同新	一五、〇〇〇	四、三〇〇
福島貯蓄	二、五〇〇	一五、〇〇〇
福島商銀	五〇、〇〇〇	五〇、〇〇〇
同新	三、〇、五〇〇	三、〇、〇〇〇
平銀行	五〇、〇〇〇	五〇、〇〇〇
磐城銀行	五〇、〇〇〇	四五、〇〇〇
磐東銀行	五〇、〇〇〇	四五、〇〇〇
磐越銀行	五〇、〇〇〇	四五、〇〇〇
四倉銀行	二、五〇〇	一〇、〇〇〇
三春銀行	五〇、〇〇〇	四〇、〇〇〇
白河銀行	五〇、〇〇〇	五〇、〇〇〇
本宮銀行	五〇、〇〇〇	五三、〇〇〇
會津銀行	五〇、〇〇〇	六〇、〇〇〇
二本松銀行	五〇、〇〇〇	四七、〇〇〇
安達實銀	五〇、〇〇〇	五二、〇〇〇
郡山銀行	五〇、〇〇〇	四、〇〇〇
同新	二、五〇〇	一六、〇〇〇
郡山商業	二五、〇〇〇	二六、〇〇〇
須賀川銀	五〇、〇〇〇	四二、〇〇〇
川俣銀行	五〇、〇〇〇	三、〇、五〇〇
百一銀行	五〇、〇〇〇	四五、〇〇〇
同新	二五、〇〇〇	一九、〇〇〇
磐城實業	五〇、〇〇〇	四三、〇〇〇
小濱實銀	五〇、〇〇〇	四〇、〇〇〇
田島銀行	五〇、〇〇〇	四〇、〇〇〇
同第一	五〇、〇〇〇	五〇、〇〇〇
同第二	五〇、〇〇〇	五〇、〇〇〇
會津電力	五〇、〇〇〇	五〇、〇〇〇
郡山電氣	五〇、〇〇〇	五〇、〇〇〇
同新	三、〇〇〇	三、〇〇〇
本宮電氣	五〇、〇〇〇	五〇、〇〇〇
同第一新	四、〇〇〇	六〇、〇〇〇
福島電燈	五〇、〇〇〇	四〇、〇〇〇
同第二新	三、〇〇〇	三〇、〇〇〇
桑折電氣	四、〇〇〇	九五、〇〇〇
靈山電氣	五〇、〇〇〇	五〇、〇〇〇
日東紡績	五〇、〇〇〇	三〇、〇〇〇
福島羽二重	五〇、〇〇〇	三、〇〇〇
日本絹撚	四五、〇〇〇	六〇、〇〇〇
飯坂電車	三五、〇〇〇	五〇、〇〇〇
大沼電燈	二五、〇〇〇	一四、〇〇〇
同新	二、〇〇〇	二〇、〇〇〇
同第二新	二、五〇〇	二〇、〇〇〇
請戸川電	四五、〇〇〇	五、〇〇〇
新潟電氣	三〇、〇〇〇	二、〇〇〇
同新	一、五〇〇	五〇、〇〇〇
植田水電	二、五〇〇	二、〇〇〇
白河電燈	五〇、〇〇〇	五、〇〇〇
四倉電燈	五〇、〇〇〇	五〇、〇〇〇

現勢批判號 (二)

政治、經濟、敎育の現勢を縱橫に批判し、是れを療をやる、患者に對しては常にどうしても癒してやるといふ自信と熱意とを持つてゐる、精神療法を加味したものである。

新柄豐富な 三井吳服店

顧客の滿足を計る

親切で、廉賣主義で信用を受け

人氣の厚い 紙屋吳服店

獨舞臺となつた、熱心であり、親切であり、技巧の点に於ても第一人者である。

ツタ議員で通つたかも知れぬが普選斷行の今日さうウマクは問屋で卸さないから、セツタ義員でなく本當の同胞の代議員に當

現勢批判號（二）

政治、經濟、教育の現勢を縦横に批判し、是れを經とし、人物、銀行、會社商店等を緯として是れを批判し、そして紹介せんとするものである本欄は可成的永久に特設して連載する計書である。

商店人物の部（其二）

眞險味を失はぬ 小田吉治氏 邊幅を飾らぬ人

氏の人となりは今更喋々を要しない、要するに氏が今日を型造つたといふ事は終始眞險味を失はないといふ点に存する、洒々落々として座談する中にも尙この眞險味が漂ふてゐる、一度計畫した事は飽迄徹しなければ止まぬといふ强い意志がある、炭礦王として成功の鍵を握つたのはこの强い意志力に支配されたからであつた、廣莊な邸宅を構へてゐるが、常に其風彩を飾らない、詰襟で東京あたりへノコノコ出懸けてゆく、政治に對しても事業に對しても氏一流の識見を有してゐる。

湯本無盡と 鯨岡誠祐氏 膽があり。熱がある

湯本信用無盡株式會社と鯨岡誠祐氏は離る可らざる密接不離な關係がある、同會社設立當時大藏省よりの認可が容易に下らなかつたとき、係員と膝詰談判をして東京に單獨運動を試み、毎日大藏省に詰め懸けで認可書を手にしない中は斷じて國へは歸らぬと頑張つてゐたので、係員も手古摺つて遂に氏の熱心さに動かされて認可を與へる事になつたといふ、この熱心さは同會社設立後メキ〳〵成績を擧げ、地方の無盡界に權威を示し大いに其氣を吐くに至つた、湯本町に於ける第一人者、全町の向上發展は氏の活躍如何に俟つものが多い、膽があり、識見がある。

好評を得た 松村病院

松村病院は平町に於ける病院としての元祖である。院長松村鐵郎氏は廉直の士、今では研究とす、患者の親切と熱心で定評がある六月中の如きは患者で毎日飯を食ふ暇さへ無かつたといふレコード破りの繁昌を見た、同病院の醫員、藥劑士、看護婦に至るまで何れも眞劍で患者に對する親切で好評を博してゐる。

藝術味豊な 高久忠氏

高久病院長高久忠氏は藝術に頗る趣味を持ち短歌をよくする、それだけ醫業に對する氏の態度は眞劍であり、患者に對する同情心が深い、貧しき患者には施療をやる、患者に對しては常にどうしても癒してやるといふ自信と熱意とを持つてゐる、精神療法を加味したものである。

手腕の人 新妻院長

赤心堂病院長新妻氏は內科でも外科でも行くとして可ならざるはなしと言つた手腕をもつてゐる、可成り大きな手術を施しでゐるが、何れもいゝ結果を見せてゐるので、外科的患者の入院が多い。

刀圭界の權威 藤沼氏の聲望

親切温情味の深い人

藤沼平次郎氏は刀圭界に於ける權威として重きをなしてゐる、性頗る謹直にして患者に對しては常に温情と親しみを以つて接してゐる、同情心の厚い人で、人力車を驅つて往診するといふ事は、急病で無い限りはほとんど見た事が無い、常に研究怠らず、治療の閑には讀書に餘念なく修養に努める人である。

路頭に迷ふ患者に對して

も施療して醫師としての本來の精神を把持する正義人である。

植田で信用ある 森合齒科醫

嘗て平町に開業して信用を得、或は青年團の幹部として社會的にも認められてゐた森合齒科醫院長森合芳男氏は、目下植田町に開業したが、日淺きにも不拘信用を集め、森合氏が同町に開業せぬ以前に在つた佐川齒科院は森合氏に一歩を讓つて大津町に轉じたので、今では森合氏の獨舞臺となつた、熱心であり、親切であり、技巧の点に於ても第一人者である。

手腕力量の人 金成金三氏

磐東銀行の事實上の頭取の位置にありて其手腕と力量とを認められてゐる金成金三氏は眞面目な努力家である、專務金成通氏は植電の社長であり或は他の事業關係から磐東銀行の方は多く留守勝ちであるが、其留守役を守つて絶對の信用を增し常に好成績を收めてゐるのは金成金三氏の力量手腕の然らしむる所である。

將來を囑望される 酒井氏の努力

お客の氣分を第一に

住吉屋支店主酒井清氏は新進氣鋭の青年として將來を囑望されてゐる、今では家業に全力を注ぎ、如何にすれば泊り客に良い氣分を與へるかに腐心し、巨費を投じて客室を改築し其他中庭、便所、風呂場等をも新築して他に見る事の出來ない壯麗さがある、まだ若い酒井氏はよく使用人に對しても其操縱妙を得て使用人も亦酒井氏に對しては影ひなたなく精勵してゐる、平驛構內の汽車辨當其他何れも精選し乘客から頗る好評を得てゐる、酒井氏は政治に對する識見もあり、思想も豐富である、氏は平町に於ける第一人者として雄飛する時期もそふ遠くはあるまい。

人氣の厚い 紙屋吳服店

親切で、廉賣主義で信用を受けてゐる二丁目の紙屋吳服店は店主始め令息に至るまで如才なく顧客に滿足を與へてゐる、商人根性が無くイヤ味もなく常に客足が絶えた事が無い、平の紙屋吳服店といへば地方では知らぬ人が無い位、賣り上げ高も他店に比し優るとも劣つてゐない。

新柄豊富な 三井吳服店

顧客の滿足を計る

三井吳服店は平町に於ける大商店だけに、其商賣上に懸けても余りコセ〳〵しない應揚な處がある、常に新柄を取揃へ顧客の滿足を買ふ可く余念が無い、近來客足も繁く、賣上げ高の如き也他の見る事の出來ない記錄を造つてゐる。

普通選擧の斷行から 政友會セッタ議員や鍬議員一掃さる

靜岡縣濱松にて　木田谿水

全國に比類ない濱松の樂器爭議は突發以來永引く事四旬必然日本勞働爭議記錄に一頁をものするのレコード破りなる事立証さる、其の間縣知事の調停、或は內務大官の調停、亦は政黨的政友會の調停と百二十數日間の資本家對勞働者の社會勞働戰爭はさながら、調停者の方が反つて戰つて居るものよりも流汗東奔西走の苦心さである、勞働者側へは勞議突發當時は相當應援者もありて米や味噌或は野菜類と寄附する者さいあつたが日を經つにつれ應援者もなくソロ〳〵下火と成つた際、人の弱味をつかむに上手な政友會は、網をハツテ俟つて居たと言はんばかりに下火に成つた勞働者側へケシかけてはシリ後しして爭議の燃火は再び猛烈に上燃し、いつあの爭議が和解するや今の處鉾先不明と唱ふる者あるが、今や濱松は全國に冠して我が國第一回の普通選擧法を斷行さる、市會議員選擧の試練場でもあり旁々此際勞働者へ味方して少しでも勢力を擴張しようとするのこんたんに外ならぬ政友會を評して識者の悉皆は口に其の行動の糞味的にあきれるが、十年前の選擧ならイザ知らず普通選擧を斷行さる眉目の今日俄かに糞味的な行動を採つたとて現代の有權者が苦節十年をものして愈々希望を達した今日、彼等惡ラツなる鍬議員やセッタ議員等の愚策に乘ずる者もなく上げたゲンコツの行り場に困つて居ると云ふが、來る十六年九月は福島縣の縣會議員總選擧でもあり、全國に冠して試練する濱松の政友會常套手段の奥の卷を出して失敗した通り福島縣の政友會否なッタ議員で通つたかも知れぬが普選斷行の今日さうウマクは問屋で卸さないから、セッタ義員でなく本當の桐駒下駄議員に當選したいなら買收策を探らず、正々堂々と戰ふべくやであらふ即ちセッタ議員の釋に曰ク當選候補に先き立ち當選後祝賀の意味で約束買收し當選の後ちに金を出した議員はセッタ議員即ち後とに金があればである。鍬議員曰ク　吾輩は當選候補に立つ前先づ是非吾輩に投票を？と先きに金を當選祝賀として差し出したから即ち鍬は柄の先にノベ金が附いてをればであると依而此等政友會の鍬議員やセッタ議員は普選斷行の今日一トたまりもなく一掃され遁穴逃沈し其再現を期せられぬであらう。

兩支店の特色

百七、七十七の業務方針

百七銀行支店と七十七銀行支店は平町に於ける大銀行の支店として相當の成績を擧げてゐるが兩支店は各々業務の本質が異つてゐるかの觀がある、七十七銀行平支店は普通の銀行に於ける業務の方針と同一の內容を有してゐる、即ち預金を吸收すると同時に貸付も盛んに行ふといふ石城地方に取りて頗る便宜を計つてゐるが、百七支店は貸付はほとんどなさず、千圓以上の貸金は本店の指揮を仰がねばならぬといふ狀態である、百七が抑も平町に支店を置いた目的は、貸付よりも預金のみを吸集して本社に送る事が業務の方針であると言つてもいゝ位である、兩支店の平地方に與へる貢献はこの事に依りて何れに其輕重の力があるかを窺はれる。

福島縣株式記

株名	拂込額	仲値
福島農工	二〇円〇〇	二五円〇〇
同新	一五、〇〇	一九、〇〇
百七銀行	五〇、〇〇	三、五〇
同新	一五、〇〇	四、三〇
福島貯蓄	二三、五〇	一五、〇〇
福島商銀	五〇、〇〇	五〇、〇〇
同新	三〇、五〇	三〇、五〇
平銀行	五〇、〇〇	五三、〇〇
磐城銀行	五〇、〇〇	四九、〇〇
磐東銀行	五〇、〇〇	四五、〇〇
磐越銀行	五〇、〇〇	四五、〇〇
四倉銀行	二〇、五〇	一〇、〇〇
三春白河銀行	五〇、〇〇	四〇、〇〇
本宮銀行	五〇、〇〇	五〇、〇〇
會津銀行	五〇、〇〇	五三、〇〇
二本松銀行	五〇、〇〇	五二、〇〇
安達實業銀行	五〇、〇〇	六〇、〇〇
郡山銀行	五〇、〇〇	四七、〇〇
同新	二、五〇	五二、〇〇
		一六、〇〇
郡山商業	二五、〇〇	二六、〇〇
須賀川銀行	五〇、〇〇	四二、〇〇
百俣銀行	五〇、〇〇	三八、五〇
同川新	二五、〇〇	一九、〇〇
磐城銀行	五〇、〇〇	四五、〇〇
磐東銀行	五〇、〇〇	四〇、〇〇
小濱實業銀行	五〇、〇〇	四〇、〇〇
田島銀行	五〇、〇〇	四〇、〇〇
福島電燈	五〇、〇〇	五〇、〇〇
同第一新	四〇、〇〇	四〇、〇〇
同第二新	五〇、〇〇	五〇、〇〇
會津電力	五〇、〇〇	五〇、〇〇
同郡山電氣	五〇、〇〇	五〇、〇〇
本宮電氣	五〇、〇〇	五〇、〇〇
同第一新	三〇、〇〇	三〇、〇〇
同第二新	五〇、〇〇	五〇、〇〇
請戸川電氣	三〇、〇〇	三〇、〇〇
新潟電氣	五〇、〇〇	九五、〇〇
同新	五〇、〇〇	五〇、〇〇
植田水電	三〇、〇〇	三〇、〇〇
白河電燈	五〇、〇〇	六〇、〇〇
四倉電燈	五〇、〇〇	五〇、〇〇
大沼電燈	五〇、〇〇	二八、〇〇
同桑折電氣	二五、〇〇	一四、〇〇
新	四〇、〇〇	三〇、〇〇
靈山電氣	五〇、〇〇	二〇、〇〇
日東紡績	五〇、〇〇	二〇、〇〇
福島羽二重	五〇、〇〇	二八、〇〇
日本絹撚	五〇、〇〇	五、〇〇
飯坂電車	四五、〇〇	五、〇〇
	三五、〇〇	二〇、〇〇

管野角之助其他氏を環る人々は何んとか再緣せねばなるまいと、心を碎いて奔走したものなれ染めは唯の中ではなかつた、榮子さんが紺屋町の屋敷に見習奉公と言ふ格で住

×

一郎さんと榮子さんの出來榮

今では福島で頼しいホームに醉ふてゐる目出度さ。

×

きもきして、心が少しも落つかぬといふる亦ことわりなり

×

の上に目出度重なる大正十五年こそ忘れられぬ吉年とこそ言ふなめれ。

貴紙の現勢批判號に贊す

平町公私立學校長懇話會
四倉町長　杉原新伍

磐城セメント株式會社
四倉營業所
植田町　馬上誠一

福島縣石城郡植田町
土木建築請負
測量設計監督
常磐工業株式會社
專務取締役　小野庄一

植田町
石城郡
大平喜治
第一區小學校長

二本松電氣株式會社
平町出張所

平製氷株式會社

取次迅速
取引正確
マルトモ　柴田書店
平町四丁目
電話二三四番

銘酒
清世界
醸造元　石城小名濱町
清水屋
小野晋平
電話六番
各炭御用達

登録商標
醇良清酒
鶴仙
醸造元　石城郡平窪村
松吉屋本店
電話二四一番

◆良品廉賣に勝る商略なし!!!
磐城セメント會社特約店
和洋銅鐵
金物問屋
久
釜屋商店
磐城平電話九三九番
確實敏捷は久の生命なり!!!

漆器の御用なら
平町一丁目
和久井屋漆器店
電話四〇五番

平町三丁目
佐川洋服店營業部
電話四一八番
平町南町通り
佐川洋服本店
電話（呼）二六九番

貸借對照表
（大正十五年上半期）

貸方

資本金	五〇〇,〇〇〇●〇〇〇
諸積立金	二〇,〇六五●一二〇
退職給與扶助基金	八三〇●〇〇〇
假預リ金	二,八六八●五三〇
掛買金	六,三九五●四七〇
支拂手形	六,五〇〇●〇〇〇
未拂配當金	●五〇〇
前期繰越金	八八六●二三〇
當期利益金	一七,九七六●九三〇
合計	五五,五二三●七八〇

借方

未拂込株金	三三七,五〇〇●〇〇〇
土地建物什器	一二,五四〇●二三〇
機械	一,七五〇●〇〇〇
配電線路	一三九,〇五一●三一〇
貸付器具	五一,三〇九●九六〇
倉庫品	五,六六六●〇三〇
假拂金	八二五●五八〇
未收入金	二,三二九●四〇〇
受取手形	七八二●〇〇〇
未經過保險料	二五三●四二〇
預金及現金	三,五一四●八五〇
合計	五五,五二三●七八〇

利益金處分案

金壹萬七千九百七拾六圓九拾參錢	當期利益金
内金貳千五百圓也	固定資產償却
差引金壹萬五千四百七拾六圓九拾參錢	純益金
金八百八拾六圓貳拾參錢	前期繰越金
合計金壹萬六千參百六拾參圓拾六錢	
内	
金壹千四百圓也	法定積立金
金壹千圓也	準備積立金
金九千七百五拾圓也	株主配當金（年壹割貳分）
金壹千六百貳拾五圓也	紀念配當金（年貳分）
金壹千貳百圓也	重役賞與金
金五百圓也	退職給與扶助基金
金八百八拾六圓拾六錢	後期繰越金

右之通リ二候也
大正拾五年五月卅壹日
四倉電氣株式會社
取締役社長　新妻盛

決算公告
改稱第拾六回
大正拾五年上半期

貸借對照表

負債之部

資本金	八五〇,〇〇〇●〇〇〇
諸積立金	五八,〇〇〇●〇〇〇
諸預リ高	六六三,三六九●五五〇
爲替借入金	四六,二四五●六四〇
未經過利益	一五,六八七●七七〇
未拂割賦金	五七三●二六〇
當期純益金	二四,五〇二●一四〇
合計	一,六五八,三七●八三六〇

資產之部

未拂込資本金	六〇四,五〇〇●〇〇〇
諸貸出金	八六五,六八三●九九〇
割手及荷手	四三,八二九●五〇〇
爲替貸	一,七九一●三三〇
國債及所有物	八〇,一五五●〇〇〇
預ケ金及現金有高	五三,四一八●五四〇
合計	一,六五八,三七八●三六〇

利益金勘定

當期純益金	二四,五〇二●一四〇
之レヲ處分スルコト左ノ如シ	
法定準備金	二,〇〇〇●〇〇〇
特別積立金	二,五〇〇●〇〇〇
重役賞與金	四二七●六四〇
株主配當金	九,五七四●五〇〇
後期繰越金	一〇,〇〇〇●〇〇〇

右之通リ二候也
大正拾五年七月
株式會社　磐越銀行
專務取締役頭取　中野甲藏
取締役　西岡重好
取締役　小野靜重
取締役蘭田嘉藏
監査役明智淺吉
監査役大谷喜作
相談役鈴木堅助
相談役森本盛一

第六拾期營業報告書

貸借對照表

負債之部

資本金	一,〇七五,〇〇〇●〇〇〇
諸積立金	二六六,〇〇〇●〇〇〇
諸預リ金	八,〇九六,三一七●八五九
他店ヨリ借入金	四七一,三八二●七八〇
借入金	二,五〇五,三〇〇●〇〇〇
コールマネー	七八〇,〇〇〇●〇〇〇
再割引手形	一,四一九,七〇〇●〇〇〇
未拂配當金	二八七●五〇〇
未拂利息及未經過割引料	一七三,五五八●〇四七
給付補塡備金	四七六●六八〇
當期純益金	七八,一七三●九五〇
合計	一四,八六六,一〇六●八一二

資產之部

拂込未濟資本金	一九三,七五〇●〇〇〇
諸貸付金	一三,〇四九,六六三●一八〇
他店ヘ貸預ケ金	二六六,八五八●五四六
	一一七,〇〇〇●〇〇〇
有價證券	六〇六,九五五●〇〇〇
所有物勘定	一七五,五八五●五〇〇
現金在高	四五六,三九四●五八六
合計	一四,八六六,一〇六●八一二

利益勘定

當期益金	七八,一七三●九五〇
内	
法定準備金	七,五〇〇●〇〇〇
別途積立金	一五,〇〇〇●〇〇〇
役員賞與金及交際費	二,五〇〇●〇〇〇
退職給與基金	三,五〇〇●〇〇〇
配當金（年九分）	三九,六五六●二五〇
後期繰越金	一〇,〇一七●七〇〇

右之通相違無之候也
大正十五年七月
株式會社　福島商業銀行
頭取　草野半
取締役　鈴木周三
取締役　油井德藏
監査役　大島要三
監査役　武藤茂平
監査役　三浦德一

（大正十二年九月廿九日第三種郵便）
發行日五日、廿日（二回）
編輯兼印刷人　鈴木昌雄
發行人　福島縣石城郡平町材木町廿二番地

京染の權威

京都市岡崎北御所町
青木京染商店

たかと言へば、當時の重役は博之氏を全く信用しなかつたといふ事である、信用しなかつた博之氏を何故に後に至つて頭取のてゐる有樣である、如上の白石

らう、事實に於て博之頭取始め重役の多くは磐銀より引き出した金はほとんど回收不能になつ支店に吉野速雄といふ男が勤めてゐたが、吉野は千八百圓の大

全く回收不能に陷つてゐる時は昨年の事であるが、磐銀の長塚

暑中御伺
（順序不同）